

手首から全身へ広がった浸出性皮膚症状と喘息を治療した成人アトピーの経過 (37 歳女性)

症例 ID：001-30-IS | 記録日：2013 年 12 月 3 日

1. 診断・治療前経過

中学生頃、右手首内側に直径約 5cm の赤い発疹が出て、掻くと浸出液が出る状態になりました。当初は毎年冬に同じ部位へ出ていました。

2003 年頃から二の腕、脇、腹部、胸、首、背中、臀部、太ももへ広がり、季節を問わず症状が続きました。2008 年頃には咳も強くなり、仕事の電話応対に支障が出ました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	複数の皮膚科でステロイド外用薬と保湿剤を使用し、咳に対する治療も受けました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	中学生頃から松本医院受診前まで断続的に使用していました。
中止時期	松本医院受診後に従来の治療を中止しました。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用しない治療へ移行しました。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
1990 年頃	来院前	右手首内側に赤く浸出する発疹が出始め、毎年冬に繰り返しました。
2003 年頃以降	症状拡大	腕、腹部、胸、首、背中、臀部、太ももへ広がり、年中症状が出るようになりました。
2008 年頃	併発症状	咳が強くなり、仕事中の電話応対にも支障が出ました。
松本医院受診後	治療開始	煎じ薬と外用処置を開始しました。
約 1 年後	回復傾向	咳はほとんど出なくなり、広範囲の浸出性発疹も小範囲にとどまるようになりました。
2013 年 8 月	再受診	皮膚症状は落ち着いていましたが、咳が再び強くなったため治療を再開しました。

4. ピーク時期

ピークは、全身の広い範囲から浸出液が出て衣類に固着し、夜間の掻破で爪や肌着に血が付いていた時期です。

5. 困りごと

- 浸出液が衣類に付着し、着替えの際に皮膚を傷めました。
- 夜間の強いかゆみと咳により、睡眠や仕事へ支障がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始後、咳は比較的早く軽減し、約 1 年後にはほとんど出なくなりました。浸出性の発疹も広範囲には出なくなり、小さな範囲に出ても外用処置で落ち着くようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。